

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	1	名称	安心・安全なまち			
施策	番号	4	名称	安心・安全な地域づくりの推進			
主担当部	まちづくり部		主担当課	都市政策課		部長名	中尾 至宏
関係部	危機管理室		関係課	危機管理課			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	犯罪の少ないまちを目指し、地域での自主的な防犯活動の支援、防犯意識の啓発や犯罪が起きにくい生活環境の整備を進め、誰もが安全で快適に暮らせる交通環境のあるまちを目指し、関係機関との連携を強化しつつ、交通安全意識の啓発や、交通安全施設の整備、公共交通の充実を目指す。
---------	---

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	防犯対策は、防犯灯の設置及び青色パトロール、子どもの事件・事故防止教室等の活動により防犯意識を高めることができる。交通安全教室による子供への交通安全に対する意識付け、また駅周辺の放置自転車の抑制のため、放置自転車の撤去に引き続き取り組み安心して通行ができる環境づくりを行う。また、コミュニティバスは、公共交通空白地域の解消を行い、市民に交通の利便性を享受してもらうことで安全安心な住みよいまちづくりを実現する。	都市化による凶悪事件が多発し、自転車の盗難、交通事故等が増加している。ただし、放置自転車については取り組みが功を奏し、減少傾向にある。地域公共交通活性化再生法が施行される。これに合わせて計画を作成することとなる。
これまでの成果	防犯対策は、防犯灯の設置数は着実にその数を増やし、夜間の視環境の改善が図られている。また交通対策は駅周辺の放置自転車の排除により周辺地域の良好な生活環境を提供し続けている。コミュニティバスの乗降客も増加しており、徐々に効果が始めている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	24年度	25年度		26年度	27年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	青色防犯パトロール隊 団体数	11	12	11	13	13	16	
	施策指標② (成果指標)	公共交通機関が利用しやすいと感じている市民の割合	—	56	—	57	58	60	
	施策指標③ (成果指標)	コミュニティバスの利用者数	29824	30000	31290	30000	30000	30000	
	施策指標④ (成果指標)								
	施策指標⑤ (成果指標)								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
	歳出 (直接事業費)(a)		298,880	345,471	329,278	358,070			
	歳入 (b)	受益者負担額	305,285	300,496	307,928	300,496			
		国や県からの補助金その他	2,440	10,120	10,030	27,582			
	(a) - (b) = 一般財源		(8,845)	34,855	11,320	29,992			
	正職員	従事者数 (単位:人)	4.65	7.15	8.20	5.70			
		人件費(c)	28,844	44,130	50,610	35,180			
	トータルコスト (a) + (c)		327,724	389,601	379,888	393,250			

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	2	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	防犯灯の設置及び青色防犯パトロール隊の結成による防犯活動が、地域で連帯感を生み、防犯に役立っている。駅前自転車駐車場や自動車駐車場の整備による放置自転車や違法駐車等の撤去を進める。このことにより、高齢者等が安心して通行が可能となる快適な駅前空間を確保でき、また道路機能の保持や交通の円滑化が可能となり、交通安全確保と駅前周辺環境美化にも寄与している。コミュニティバスは、公共交通空白地域の解消を図り、生活弱者の交通手段として定着しつつある。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	地域ぐるみによる防犯意識を高めている。公共交通の利便性を図るため駅周辺に自転車駐車場を整備し、駅周辺の交通安全確保と環境美化意識を高めている。コミュニティバスは、高齢者や障がい者等の交通弱者に対応し、公共施設等への交通手段として貢献している。				

6. 施策の課題

この施策の課題	民間ボランティアによる青色防犯パトロール隊への加入率が横ばいになっている。放置自転車の撤去台数は、減少しつつあるが、住民意識のモラルの低下により、すべてがなくなる。交通安全意識の更なる高揚のため、交通指導員の知識や説明技術・企画運営能力の向上等、人材育成に努める必要がある。コミュニティバスの利用者の増加を図るため、広報等によるPRを拡充し、わかりやすい案内板の設置や停留所作りが必要である。また、観光客の乗車を促すため、観光名所等の情報発信等を行っていく。
---------	---

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	防犯意識の向上、交通安全意識の向上を図り、安全で住みよいまちづくりを目指すため、防犯灯の設置及び環境美化に努めていきたい。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	子供や高齢者をはじめ、市民に安全で安心して暮らしていける環境づくりの整備、交通安全意識の高揚、駅前自転車、駅前駐車場の整備による駅前空間の確保。コミュニティバスは、交通弱者への生活交通としての不可欠な移動手段である。一方、観光客にコミュニティバスを利用した観光への利用啓発や沿線の施設との協力によるイベント等を通じて、付加価値を見出し、新たな利用客の創出に努める。以上のことから、廃止または縮小すべき事業はない。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度－事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性－事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)－施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH25決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	危機管理課	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防犯青色パトロールに対する支援事業の実施 ・自治組織に対する防犯灯設置補助事業の実施 ・市民の安全対策を推進する「生活安全推進協議会」の開催 ・市民の生活安全に関し、市民等に対する情報提供及び自主防犯活動への普及啓発 ・市民、自主防犯団体を対象とした各種セミナー・出前講座の実施 ・防犯施策に関する警察、関係機関との連携事業 ・榎原警察署・榎原市・高取町・明日香村で構成する防犯協議会及び暴力団追放協議会の共同事業の実施・運営 	1 拡大する	a	拡大する	B
	安心安全な地域づくり事業 (ソフト(任意))		25,183 (千円)			
2	都市政策課	近鉄八木駅から県立医大病院・万葉ホール等を経由し昆虫館までコミュニティバスを運行している。観光客の利便性を考慮し、土・日・祝日については、昆虫館から明日香村まで延伸し、明日香周遊バスと連絡運行を行っている。また、公共交通空白地に対し、新規路線バスを導入させることで、当該地域の利便性を向上させると同時に、利用交通機関の選択肢を増やすことで、当該地域に居住する高齢者など交通弱者への救済を図る。	1 拡大する	b	拡大する	A
	コミュニティバス運行事業 (ソフト(任意))		13,140 (千円)			
3	都市政策課	交通指導員や榎原地区交通対策協議会・交通安全母の会による交通安全教育及び啓発事業の実施。放置自転車や放置自動車の撤去事業	2 現状のまま継続	a	見直しながらかつ続ける	B
	交通安全対策事業 (ソフト(任意))		39,280 (千円)			
4	都市政策課	市営自転車駐車場の管理運営。尚、管理運営については、入札(長期継続契約)により業者の選定を行っている。	2 現状のまま継続	a	見直しながらかつ続ける	C
	自転車駐車場管理業務事業 (ソフト(任意))		149,844 (千円)			
5	都市政策課	市営駐車場の管理運営	2 現状のまま継続	a	見直しながらかつ続ける	D
	駐車場管理事業 (ソフト(任意))		101,831 (千円)			

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年5月26日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	安心安全な地域づくり事業									
	担当部名	危機管理室	担当課名	危機管理課	課長名	立辻 満浩					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	1	安心・安全なまち							
		施策	4	安心・安全な地域づくりの推進							
	予算事業名	報酬給与費・生活安全推進費・檀原防犯協議会等負担金									
	事業の開始年度	平成	17	年度	事業の終了予定年度	平成	-	年度			
	対象	市民、事業者及び自主防犯団体等			事業の 内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防犯青色パトロールに対する支援事業の実施 ・自治組織に対する防犯灯設置補助事業の実施 ・市民の安全対策を推進する「生活安全推進協議会」の開催 ・市民の生活安全に関し、市民等に対する情報提供及び自主防犯活動への普及啓発 ・市民、自主防犯団体を対象とした各種セミナー・出前講座の実施 ・防犯施策に関する警察、関係機関との連携事業 ・檀原警察署・檀原市・高取町・明日香村で構成する防犯協議会及び暴力団追放協議会の共同事業の実施・運営 					
	事業の 目的	「檀原市安全で住みよいまちづくりに関する条例」に基づき、市民の安全意識の高揚と自主的な防犯活動の推進を図るとともに、生活環境の改善整備を行うことにより、犯罪の少ない、安全で住みよい檀原市の実現を目指す。									
	市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業							
			2	市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
説明		本事業は自治事務であり、条例の規定では、市の責務として、市民への啓発、市民の自主的な活動の推進、防犯環境の整備等が定められている。上位施策である「檀原市第3次総合計画」にも明記されていることから、市民生活の安全確保のための重要な施策であるため、市が直接関与すべき事業である。									
やめた 場合の 影響は		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
説明	犯罪抑止効果が得られず、市民の生活安全に影響を及ぼす。										
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	市内の犯罪認知件数(公安委員会調べ)			1,542	1,500	1,551	-	-	-	
	活動指標 ①	青色パトロール組織数			11	12	11	12	13	13	
	活動指標 ②	防犯灯設置数			379	770	725	2,500	2,500	2,500	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			15,935	25,432	25,183	57,843			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他			2,440	10,120	10,030	27,582		
		(a) - (b) = 一般財源			13,495	15,312	15,153	30,261			
正職員		従事者数(単位:人)			3.10	3.55	3.20	2.20			
		人件費(c)			19,229	21,911	19,750	13,578			
トータルコスト(a)+(c)			35,164	47,343	44,933	71,421					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	<ul style="list-style-type: none"> 防犯灯設置補助事業の実施により、夜間の視環境の改善が図られている。また、LED防犯灯の導入により、照度の確保、節電、環境への負荷軽減に対する高い効果が得られている。 自主防犯活動への支援により、各地域での防犯意識が高揚してきている。 						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	市の総合計画が目指している、「安心安全な地域づくりの推進」を実現するために不可欠な事業であり、上位施策への貢献度は高い。						
評価	効率性評価	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要		
			説明	自主防犯団体が行う活動に対して行政が行う支援は不可欠である中、十分な予算確保ができていない。防犯灯設置補助事業については、灯具のLED化による補助事業の拡充に伴い、補助金交付要綱を改正し、補助限度額の大幅な引き下げを行ったところである。					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		<ul style="list-style-type: none"> 自主防犯活動支援を充実することによって、市民活動の活性化、市民の防犯意識の向上が期待でき、安心・安全なまちづくりが実現する。 防犯灯のLED化を推進することで、歩行者の視環境の改善、灯具の長期間使用及び節電効果による管理者(自治会)の経済的負担が軽減されるとともに、低炭素社会への貢献、環境負荷の軽減が可能となる。 						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B
			説明	防犯灯設置補助事業の拡充(H26年度～29年度の4年間で市内の全防犯灯のLED化)、「地域防犯重点モデル地区支援事業」H26年度の新規事業)の実施により事業を拡充していく。					

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 6月 2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	コミュニティバス運行事業									
	担当部名	まちづくり部	担当課名	都市政策課	課長名	浅田 善規					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	1	安心・安全なまち							
		施策	4	安心・安全な地域づくりの推進							
	予算事業名	コミュニティバス運行事業									
	事業の開始年度	平成	19	年度	事業の終了予定年度	平成	年度				
	対象	乗客			事業の 内容説明	近鉄八木駅から県立医大病院・万葉ホール等を経由し昆虫館までコミュニティバスを運行している。観光客の利便性を考慮し、土・日・祝日については、昆虫館から明日香村まで延伸し、明日香周遊バスと連絡運行を行っている。また、公共交通空白地に対し、新規路線バスを導入させることで、当該地域の利便性を向上させると同時に、利用交通機関の選択肢を増やすことで、当該地域に居住する高齢者など交通弱者への救済を図る。					
	事業の 目的	公共交通空白地域対策、高齢者対策、観光振興対策									
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	民間事業者の参入が見込まれない地域に居住する交通弱者への交通権を守り、同時に当該地域の活性化を図る為							
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい		やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明	自動車等の移動手段を持たない高齢者等への交通弱者への影響は大きく、その様な方の生活交通手段は維持せねばならない。										
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	利用者数(人)			29,824	30,000	31,175	31,500	31,500	40,000	
	活動指標 ①	運行収入(千円)			4,365	4,500	4,585	4,650	4,650	6,000	
	活動指標 ②										
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			14,261	16,856	13,140	16,700			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			14,261	16,856	13,140	16,700			
正職員		従事者数(単位:人)			0.80	0.80	1.35	0.95			
		人件費(c)			4,962	4,938	8,332	5,863			
トータルコスト(a)+(c)			19,223	21,794	21,472	22,563					
単位当 りコスト	計算式等 (トータルコスト)÷(活動指標①)			4.40	4.84	4.68	5.38				
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	生活交通の手段としてだけでは無く、観光にも利用して貰える提案をし続けており、その周知が定着しつつある。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	高齢者や学生等、一般に交通弱者と呼ばれる方々が、通学や通院、普段の買物等社会生活に不可欠な交通手段を確保する事は、安心して暮らせる街づくりに直結する政策である。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 現時点で効率が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	2 概ね高い効率が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	3 効率がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率が低く、大幅な改善が必要				
		説明	燃料費の高騰、消費増税等により、運行委託料が増加しており、また、運行収入も増加はしているもののコストを削減出来るまでには至っていない。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		生活交通の手段であり続けると同時に、観光への利用啓発や沿線の施設との協力によるイベント等を通じて、コミュニティバスに付加価値を見出し、新たな利用客の創出に努める。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		A	
説明			4 廃止又は休止する 5 完了する 市域の現況を把握しつつ、新規路線コミュニティバスの導入を検討していく為							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 6月 2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	交通安全対策事業									
	担当部名	まちづくり部	担当課名	都市政策課	課長名	浅田 善規					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	1	安心・安全なまち							
		施策	4	安心・安全な地域づくりの推進							
	予算事業名	交通安全対策事業									
	事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成	年度				
	対象	市民			事業の 内容説明	交通指導員や檀原地区交通対策協議会・交通安全母の会による交通安全教育及び啓発事業の実施。放置自転車や放置自動車の撤去事業					
	事業の 目的	各種交通安全対策を講じることにより、安心・安全で快適な地域社会を実現する。									
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	交通事故による悲惨な事故が減少する様に、警察と連携し、交通安全母の会等の各団体を取り纏め、交通安全を広く市民に啓蒙することは、公共の利益に資する行為である為。							
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい		やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
		説明	警察・各種交通安全啓発団体の啓蒙活動に統一性が無くなり、その実効性が脆弱化する。また、不法駐車増加により街の景観・治安、並びに住環境に悪影響を及ぼす。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	交通事故発生件数			4,895	4,900	4,992	4,900	4,900	4,900	
	活動指標 ①	放置自転車数			736	700	846	700	700	700	
	活動指標 ②	交通安全教室実施回数			38	38	38	38	38	38	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			17,516	41,357	39,280	17,822			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			17,516	41,357	39,280	17,822			
正職員		従事者数(単位:人)			0.10	0.90	1.35	0.75			
		人件費(c)			620	5,555	8,332	4,629			
トータルコスト(a)+(c)			18,136	46,912	47,612	22,451					
単位当 りコスト	計算式等 (トータルコスト) / (活動指標①)			35,177	67,017	56,279	31,489				
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	放置自転車の撤去台数は、年度によってムラがあるものの、減少しつつあり、周辺の住環境の維持、または景観や治安の維持に寄与している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	交通の安全や放置自転車の減少による住環境の整備は、安心・安全な地域づくりの推進に直結した事業であり、上位政策への貢献度は、非常に高いと言える。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要				
		説明	交通指導員や放置自転車撤去料金など、人件費の割合が大半を占めていることから、これ以上の経費削減は困難である。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		警察や交通安全関連団体と連携し、交通安全の啓蒙、交通マナーの周知を行い、交通面で事故のない、安心して暮らせる街づくりに貢献する。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		A	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	交通安全意識の稀薄化や公共施設周辺の不法駐車増加は、景観面での悪影響はいうに及ばず、治安面や住環境の悪化にも影響を及ぼすものであり、縮小や廃止は不可能である。					

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年6月 2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	自転車駐車場管理業務事業										
	担当部名	まちづくり部	担当課名	都市政策課	課長名	浅田 善規						
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	1	安心・安全なまち								
		施策	4	安心・安全な地域づくりの推進								
	予算事業名	自転車駐車場管理費										
	事業の開始年度	昭和	55	年度	事業の終了予定年度	平成	年度					
	対象	利用者			事業の 内容説明	市営自転車駐車場の管理運営。尚、管理運営については、 入札(長期継続契約)により業者の選定を行っている。						
	事業の 目的	道路交通の円滑化を図り、公共交通の利用へと市民を 導く事で渋滞の緩和を目指すと同時に、自転車利用者の 利便性の向上に寄与する。										
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民 ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)								
			説明	駅周辺の放置自転車対策として有用であり、交通事故の減少、駅周辺の景観・治安の保全に大きく寄与して いる。								
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい		やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
説明	駅周辺での放置自転車の増加に繋がり、駅周辺の住環境や治安に悪影響を及ぼす。											
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度		
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標	料金収入			135,772	135,496	135,554	135,496	135,400	135,292		
	活動指標 ①	定期利用台数			48,807	48,600	49,167	48,600	48,600	48,500		
	活動指標 ②	一時利用台数			265,106	266,000	266,774	266,000	266,000	266,000		
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算				
		歳出(直接事業費)(a)			152,478	156,351	149,844	155,530				
		歳入 (b)	受益者負担額			135,772	135,496	135,554				135,496
			国県補助金等その他									
		(a) - (b) = 一般財源			16,706	20,855	14,290	20,034				
		正職員	従事者数(単位:人)			0.25	0.95	1.15				0.90
			人件費(c)			1,551	5,863	7,098				5,555
		トータルコスト(a)+(c)			154,029	162,214	156,942	161,085				
	単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
	備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	年度によって、多少の増減はあるものの、放置自転車の撤去数が減少傾向にあり、駅周辺の住環境に与える影響は大きい。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	駅周辺の住環境の整備に大きく寄与しており、安心・安全な地域づくりに貢献している。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	2 概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	3 効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要				
		説明	自転車駐輪施設への維持管理業務費の割合が高く、コストの低減は困難である。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		機械管理(無人化)の可能な施設については、合理化を行い、効果を維持しつつ支出の抑制に努める。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	極めて公共性の高い事業であり、合理化・効率化を考慮しつつも、事業の効果の低下をさせる事無く、維持に努める。					

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年 6月 2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	駐車場管理事業									
	担当部名	まちづくり部	担当課名	都市政策課	課長名	浅田 善規					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	1	安心・安全なまち							
		施策	4	安心・安全な地域づくりの推進							
	予算事業名	駐車場管理事業									
	事業の開始年度	昭和	55	年度	事業の終了予定年度	平成	年度				
	対象	利用者			事業の 内容説明	市営駐車場の管理運営					
	事業の 目的	道路機能の保持及び道路交通の円滑化を図り、都市機能の維持及び増進に寄与する。									
	市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業							
				2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
説明		自動車の保有率が上昇し、外出時に自動車を使用する市民が大多数である。これら市民の需要に応え、かつ円滑な交通行政に寄与し、また駅周辺の住環境の保全など、極めて公共性の高い事業である。									
やめた 場合の 影響は		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
	説明 駅、商業施設周辺での不法駐車が増加し、交通事故の増加を招き、渋滞を発生させる等、住環境に多大な悪影響を与える。										
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	料金収入			169,513	165,000	172,374	165,000	165,000	165,000	
	活動指標 ①	定期使用台数			3,659	3,600	3,653	3,600	3,600	3,600	
	活動指標 ②	一時使用台数			277,473	255,000	287,897	255,000	255,000	255,000	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			98,690	105,475	101,831	110,175			
		歳入 (b)	受益者負担額			169,513	165,000	172,374	165,000		
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			-70,823	-59,525	-70,543	-54,825			
正職員		従事者数(単位:人)			0.40	0.95	1.15	0.90			
		人件費(c)			2,481	5,863	7,098	5,555			
トータルコスト(a)+(c)			101,171	111,338	108,929	115,730					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	自動車を利用する市民の需要に応え、駅や駅周辺の交通渋滞を緩和し、当該地域の住環境の保全に大きく貢献している。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	駅周辺での不法駐車を減少させることで、周辺地域での交通渋滞や事故を減少させ、景観や住環境の保全に貢献し、安心して暮らせる地域づくりに貢献している。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	2 概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	3 効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要				
		説明	施設の管理委託料が支出の大半を占め、また施設の老朽化に伴う補修等も必要となる為、削減は難しい。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		駐車場の立地や利用者のニーズに合わせた、営業時間・料金体系を設定し、利用者の増加を目指す。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C	
説明			4 廃止又は休止する 5 完了する 公共性の高い事業であり、合理化を図りながら、継続する。							